

## ～ボランティア問題～

横浜市

小規模多機能型居宅介護事業所アルメリア

管理者 山口 真充

### 1. はじめに

近隣住民の方が事業所へ相談に来られる方の中には自立されており、介護保険サービス利用対象外の方であっても「遊びに行く場所がなく近所にこういう場所があるなら暇な時に利用したいなあ」という相談を受けることがあり、平成29年5月から地域住民の協力を得ながら事業所から地域に向けての活動を実現させ、「地域交流喫茶シャンティ」を開催しています。現在も『地域活動を積極的に取り組む。』というアルメリアの目標を取り組んでいく中で、地域住民がボランティアメンバーとなり協力を得ながら地域活動を円滑に進めていく、という場面が多々ありました。しかしながら多くの人々が関わっていく間に問題点にも直面し、それらの問題にアルメリアが取り組んでいった過程について発表致します。

### 2. 事例・取り組みの紹介

この発表にあたり、関係者に確認し同意を得ております。

令和1年9月末日現在、アルメリアに来てくださるボランティアメンバーの年齢は70台前半から80代半ば、女性が9名です。地域交流喫茶の手伝いやお話、裁縫手伝い等の活動をしています。

平成29年5月からアルメリアとボランティアメンバーだけが中心となり、『地域交流喫茶シャンティ』を開催し2年5ヶ月の月日が経ちました。また平成30年4月から地域包括支援センター主催の『介護者の集い』という地域住民への家族会をボランティアメンバーにも参加してもらい、アルメリアの2階で開催される事となりました。それぞれ開催当初は解からない事も沢山ありながらも、無我夢中で地域と交流する場を毎月継続して開催していきました。『満足感・達成感を感じられる！・・・』そう思っていました。

ところが職員は、本業である小規模多機能サービスの業務の傍ら、毎月の地域活動の企画・運営をしていくことが、苦になり始めていたのです。気が付けばボランティアメンバーも貴重な意見は発言してくれ、参考にはなるものの、開催し始めた時よりアルメリア任せになってきており、メンバーが「活動に関しての企画・運営をしていく、ということは、責任重大・・・」という思いになっていったようです。

“誰かの役に立ちたい”という気持ちがあるものの、ボランティアメンバーが活動を自主的主体的に行動することに対して非積極的であり、しかし頼まれたことはやる、頼まれ事がないと活動できないという状況にあり、ボランティアメンバーの活動意欲が低下してきているのではないかと感じたのです。

そんな時、地域包括支援センターやボランティアメンバーも参加しているアルメリア運営推進会議で議題として検討すると、いくつかの情報を得ることが出来ました。

### 3. 実施及び結果

それらの情報をもとに、まずアルメリアで行動したことは、よこはまシニアボランティアポイントの受け入れ施設として登録しました。登録した事により、そのシニアボランティアポイントが獲得出来るようになり、お金又は寄付に還元することができる、という利点をボランティアメンバーに説明し、よこはまシニアポイントを獲得するための講習会への参加を提案しました。すると全員がボランティアについての講義を受けてきてくれました。

続いて旭区 地区担当の保健師からの助言もあり地域交流喫茶シャンティは「運動・体操」、「趣味・文化」等の催し物を継続的におおむね月1回開催している、という理由から『自主的に介護予防活動を行っているグループとして『みな元気旭！ステーション』という旭区独自の介護予防事業の認定をうけました。『みな元気旭！ステーション』の、のぼり旗を頂き、また旭区元気づくりマップにも掲載して頂きました。そのマップをボランティアメンバーが少し誇らしげにお客様にみてもらっていました。

また地域ケアプラザの生活支援コーディネーターや地域活動交流コーディネーターが親身になり助言や情報提供を頻繁にしてくれたことにより、ボランティアメンバーは「フォローしてくれる社会資源がある」と心強く思えたようでした。

アルメリアが行動を起こしてから期間としては10か月間、積み上げてきたことが良い方向へ働き、活動意欲が少しずつ上昇していったのです。するとボランティアメンバーのリーダー格の方が、メンバー内で役割分担をし始め、現在ではボランティア活動の企画・運営において、自然と自主主体的に活動してくれるようになっています。

### 4. 考察

よこはまシニアポイントを獲得するための講習会へ参加してきた結果、ボランティアの心得を学び視野が広がったことに増して、ポイントが溜まるという楽しみが出来たこと。そしてボランティアメンバーが行ってきたことが役所に評価されるという成功体験を得て、メンバーのボランティア意識がさらに高まり報告書まで作成してくれるようになりました。

またボランティアが責務を背負い込む必要はなく、フォローしてくれる人たちがいる、という理解が重要であると感じました。ボランティアとして“誰かの役に立ちたい”というやりがいだけでなく、“自分の為に、楽しみたい”というやりがいを感じたことによりボランティア自身の活動意欲が上昇していったと考えています。今後の課題としては、ボランティア活動は奥深く、ボランティア・コーディネーターという分野の理解が必要だと感じていますが、ボランティアメンバーの平均年齢が77.7歳であり、世代・交代も必要になる時期が近づいてきています。

### 5. まとめ

ボランティア問題を作り上げてしまったのはアルメリアではないか？ボランティアの進む道を示せば、ボランティアメンバー自身がやりがいを見つけ期待以上の活動をしてくれる、非常に良い事例を経験させてもらいました。職場に置き換え、まさに介護職員を人材育成していく過程に酷似しており、ある研修で『上司の成長は部下の成長で決まる』という講義を受けましたが今回の件では『アルメリア職員の成長はボランティアの成長で決まる。』ということを実感させられました。『気付かせてくれてありがとう、ボランティア問題・・・。』